

ニュージーランド高校滞在レポート (2021 年 1 月号)

皆様あけましておめでとうございます！

ニュージーランドのオークランドに留学している粕谷海人です。

新型コロナウイルスがなければ、今頃僕は日本の大学の合格を決め、完全帰国をしていたはずなのですが、新型コロナウイルスの影響により、秋に推薦入試のための一時帰国をすることが叶いませんでした。内心、NZ を離れることへの心残りもあった僕は、急きょ NZ の大学を目指すことになり、留学 3 年目にして初めて NZ のクリスマス&年越しをすることになったのでした。そこで今回は僕の体験した NZ のクリスマスと年越しを紹介したいと思います。

まず初めに、NZ でのクリスマスを紹介したいと思います。NZ ではハロウィンが終わると日本のようにスーパーマーケットやショッピングセンターはクリスマス一色となり、店頭にはクリスマスのデコレーションやお菓子などがたくさん並びます。



しかし、NZ は南半球なのでクリスマスの時期は真夏です。クリスマス用品とウォーターレジャー用品が仲良く陳列されている光景が、日本人の僕にはとても奇妙であり面白く感じました。

クリスマスが近づくと、僕のホストファミリーはクリスマスの準備で忙しくなります。フォーマルラウンジにはクリスマスツリーが飾られ、ツリーの下には数々のプレゼントボックスが並べられます。また 12 月 24 日は、朝から、様々なクリスマス料理の調理が始まります。海外のクリスマス料理といえばローストターキーと派手なケーキのイメージですが、僕のホストファミリーは南アフリカ出身なので、一般的なニュージーランドのクリスマス料理とは違います。この日は、『ビリヤニ』という炊き込みご飯のような料理（元々はインド料理ですが、ホストマザーの得意料理。時間がかかるのでパーティなどの特別な日に作ってくれます）や、茹でた塩漬けの牛肉料理『ソルトビーフ』を作りました。

このように家庭によってさまざまなクリスマス料理がふるまわれるのも、多民族国家であるニュージーランドならではの思い出でした。

ニュージーランド高校滞在レポート (2021 年 1 月号)

クリスマス当日は、まず初めに、ホストファミリーの息子さん夫婦と二人の子ども（孫たち）と一緒に、ビリヤニを持って『もう一人のおばあちゃん（息子さんの奥さんのお母さん）』の家に伺いました。おばあちゃんの家にはすでに多くの親戚が集まっており、みな暖かく僕たちを迎えてくれました。僕たちはそこでクロワッサンなどの軽食と温かい紅茶やジュースを頂きました。2時間ほどの滞在後、帰り際に僕はおばあちゃんからクリスマスプレゼントとしてニュージーランド柄のTシャツを頂きました！



帰宅後早々、再び、料理が大好きなホストマザー（指揮官？）の指示の元、新たな料理が始まりました。マカロニ、ローストラム、ローストチキン、ポテトサラダなどを2～3時間かけて調理し、その間、僕もずっとキッチンから離れることはできませんでした。



最後に、『トライフル』というゼリー、スポンジ、カスタードを混ぜ合わせたイギリスのデザートを作りましたが、このデザート作りはホストファザーの担当でした。夕飯後は、プレゼントを開けたりテレビを見たりなど家族で楽しい時間を過ごしました。

クリスマスの翌日には、みんなで海に行きパドルボードに乗りました。僕は初挑戦でしたが、バランスをうまくとり、ボードの上に立つことができました。この日、僕は一度も海に落ちることがなく、すっかりパドルボードの虜になってしまいました。



ニュージーランド高校滞在レポート (2021 年 1 月号)

僕のホストファミリーは、毎年、年末年始は南アフリカで過ごすことが多いのですが、今年は『もう一人のおばあちゃん』の別荘で過ごすことになりました。

大忙しのクリスマスから 5 日後の 30 日、『もう一人のおばあちゃん』の別荘には多くの親戚が泊まりに来るため、僕たちは寝泊りのためのキャンピングトレーラーを牽引し、車で別荘へ向かいました。



到着後、キャンピングトレーラーを庭に設置し、入り口にシェルターを取り付けたのですがこの日は強風のため作業がなかなか進まず、寝泊りの準備に 3 時間もかかってしまいました。僕はキャンピングトレーラーでの寝泊りは初めてで、寝られるかどうか心配でしたが、カプセルホテルのような心構えでいたら（実はカプセルホテルで寝たこともないのですが）すんなりと寝ることができました。

年明けの瞬間はホストファミリーと一緒に過ごしました。周りの家では音楽を流したり花火をしたりと、どんちゃん騒ぎをしていましたが、僕たちは静かにお茶をしながら話したり映画を見たりしながら過ごしました。

日本の友だちには、新年のあいさつ LINE を送りましたが、4 時間の時差があるので、日本はまだ大晦日の夜 8 時。「なに先に年越してるんじゃ！」という返事が戻ってきたりして、年明けから楽しい日となりました。

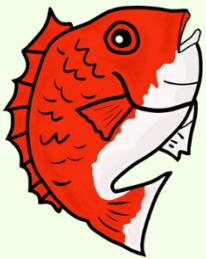
元日はボートで釣りをしたりパドルボードに乗ったあと、ビーチへ行き厄落としのための水泳をしました。僕のホストファミリーは、年始に水泳で厄落としをするのが恒例なのだそうです。そこで僕も、海に潜ったりボディボードで波に乗ったりと、新年から泳ぎまくり、NZ の海で十分に厄落としをしました！

翌日には、またボートで釣りに行きました。前日の釣りでは 2,3 匹鯛が釣れましたがどれも規定値以下のサイズだったため持ち帰ることができませんでした。NZ では環境保護のため、持ち帰れる魚のサイズが決まっています。そのため、規定値以下の魚は海へリリースする必要があります。また、ボートの発着地点には捕まえた魚のサイズをチェックする警備員のような人がいて、違反していた場合には多額の罰金が科せられるとホストマザーから聞きました。ともあれ、この日は前日釣果が上がりなかった反省を生かし、夜釣りをすることにしました。空が暗くなり始める夜 9 時に出発、レーダーが魚群を映す場所に錨を下ろし、皆一斉に釣り糸を垂らしました。エサは美味しそうに太った冷凍ニシンでした。30 分が経過し自分の釣り糸を見失うほど辺りはすっかり暗闇に包まれましたが、誰一人として魚を釣り上げることができません。しびれを切らしたホストマザーがポイントを移動しようと言い出し、皆一斉に釣り糸を巻き取り始めました。

ニュージーランド高校滞在レポート (2021 年 1 月号)

僕はその時ちょうどエサを針につけ終わったばかりだったので、ダメもとで釣り糸を海に垂らしました。そうこうしているうちに、他の人たちはすっかり移動の準備ができたため、僕も手早くリールを巻き始めました。

すると、さっきとは違う感触！明らかに何かがかかっている!! まさかの展開に動揺した僕は咄嗟に単語が出てこず、捕まえてもないのに「I'm catching!」と叫び、それにツボって爆笑する者1名、右往左往と慌てる者1名、冷静に網を構える者1名、このチャンスを逃すものかと奮闘する者1名と、ボートの中は海のと真ん中でてんやわんやとなりました。



いよいよ僕が釣竿を上げると、海から姿を現したのは、立派な鯛！正月早々実に目出タイ!! (これは英語で説明するのに時間がかかりそうなので心の叫び)

ホストマザーたちは、『もう一人のおばあちゃんにいいお土産ができた』と大喜びでした。

その後、息子さんが巨大なウナギを釣り上げ「蛇だ！蛇が釣れたぞ！」と船の上は再び大騒ぎとなり、暴れるウナギを素手で捕まえたら「よくそんなことができるな！」と若干ひかれ気味に感心されました。

このような感じで夜釣りは大盛り上がりで楽しかったのですが、帰宅したのは深夜2時。翌日は皆、お昼近くまで寝ていました。

ちなみに、このNZ産のウナギは単なる興味本位で別荘に持ち帰りましたが、僕は、もちろん食べるために四苦八苦して捌きました。ところが、苦勞して捌いた鰻はいつの間にか冷凍庫に封印され、別荘に置き去りにされてしまいました。



初めてのNZでの年越しは、ドタバタコントのような『実に我が家らしい新年!』で、これから始まる1年がますます楽しみに感じました。

今回のレポートは以上です。NZでのクリスマスと年越し、新年の雰囲気をも感じていただけたならうれしいです!

今年1年間はNZでの大学受験に向けてより一層頑張っていきたいと思っておりますので、

引き続きよろしく願いいたします!

2021 年 1 月 10 日 粕谷 海人